

### ○ 輸入豚肉原料事情 先行き在庫減少予想で現物相場も先高思惑強まる 産地価格高に円安加わり今後の輸入は減少、国産冷凍品も減少予想に

1～3月のフローズン豚肉の輸入量が前年比8.5%増の13.5万tと多かったことから3月末の輸入フローズン豚肉の在庫量は16万t前後の水準を維持しているが、4月以降の輸入量は減少予想にあることから今後、在庫量は減少に向かうとの見方が強まっている。こうした状況を反映して、特に加工向けのスソ物部位は市中に出にくくなってきており、先行き市中現物相場の値上りは避けられない状況となってきている。

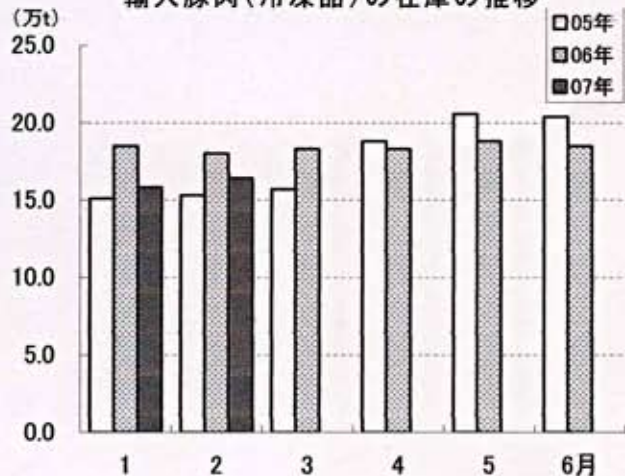
2月末の輸入冷凍豚肉の在庫量は、農畜産業振興機構の調べによると16.4万tとなっており、前年比では90.9%となっているが、前々年比では106.8%と、この時点ではまだ高水準にある。3月末でも16万t強を維持しているものとみられる。しかし、4月以降の輸入量は前月比で「かなりの程度」から「やや減少」の見通し(振興機構予測)となっていることから、輸入量の減少に伴い在庫量は減少に向かうものとみられる。一昨年まではSG発動がなかった4～7月に輸入が集中して、この時期に在庫をストックしていたが、今年は、継続してSGの発動がないため4～7月の輸入は少なく、一昨年と比べると在庫水準は大幅に減少する可能性がある。

業界内でも、ロシアのデンマークからの買いは一時と比べて弱くなってきているものの、北米産を中心とした生体価格上昇、このところの円安推移などにより今後の輸入は「かなり減少する」との見方を強めている。現在の在庫量の大半は、加工筋の手当て在庫で浮遊玉は少ないものとみられる。特に、ピクニックやクッションミート、シートベリーなどの浮遊在庫はかなり薄くなってきていると言われている。こうした状況を反映して、スソ物部位の引き合いは強まってきているものの、玉が出にくくなってきており、「買値を上げて物が出てこない」という状況。現物の仲間相場そのものはまだ値上げには動いていないが、「今後、在庫がさらに減少すれば、現物相場を上げざるを得ない」(卸筋)という。

一方、国産品の冷凍品在庫も、2月末現在で前年比14%減の1万6,218tと減少傾向で推移している。今冬は、枝肉相場下落期間が短かったことから十分な在庫ストックが出来なかったため、3月以降はさらに減少するものと見られる。国産冷凍在庫も先行き玉薄の懸念を強めている。

加工筋の在庫手当ては、秋口頃まではほぼ終了しているものとみられるが、歳暮需要期以降の手当てはこれからというところが多く、今後の原料手当ては一段と厳しい対応が強いられそうだ。

輸入豚肉(冷凍品)の在庫の推移



農畜産業振興機構調

### ○ 牛肉相場下げ基調、中間流通は売りやすい相場、生産者は試練の時期に

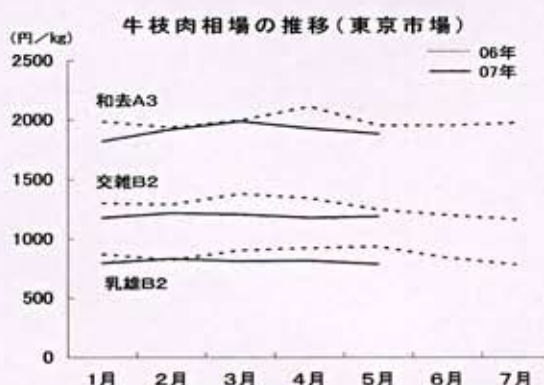
牛枝肉相場は、昨年末需要は不振に終わり、4月末からのゴールデン需要も盛り上がり、前年と比べて低迷相場を続けている。中間流通にとっては売りやすい相場となってきたが、肥育農家にとっては素牛高に配合飼料の高騰が加わり、採算割れの厳しい状況となっている。今後、6月から7月にかけては梅雨期の不需求期となるため、7月半ば頃まではさらに弱気の相場が続く見通しである。

末端の消費動向は、小売市場においては店によりばらつきが大きいものの、前年比でトントンという状況だが、外食(特に焼肉)の需要は低迷したままとなっている。畜種では、相場が値下がりしている和牛、交雑種はまずまずの動きとなっているが、この間相場が高値で推移していた乳雄は、ヒレ以外は悪い状態が続いている。枝肉相場が下がり、売りやすくなってきているが、全体の需要を喚起するという状況にはなっていない。

今後の見通しとしては、需要面では、6月17日の「父の日」の需要、気温の上昇とともに焼肉需要も強まり、量販店での販売はまずまずと見込まれるが、外食(焼肉)需要は活気が出ないまま推移しそうだ。その理由は、焼肉店の客数の回復が遅れていることや、大手チェーンを中心に、すでに凍結物を手当て済みとの話もあり、外食でのフレッシュ物の需要は低迷したまま推移するとの見方が強まっている。このため、今後夏場にかけての焼き材の需要は低迷し、ダブつく懸念が出ており、これが相場低迷の要因となってきた。また物価が上昇傾向にあり、税制改正も加わって節約ムードが一層強まることも考えられ、外食も含めた全体の需要は引き続き低迷基調で推移するものとみられている。

一方、供給面では、この間の相場低迷で出荷控えの傾向が続いたため出荷適齢牛は、乳雄以外は増加傾向にあるものと見られている。さらに配合飼料の高騰により、出荷を遅らすことも困難となってきたため、相場が低迷しても出荷せざるを得ないため、6月、7月にかけての出荷頭数はそれほど減らず、前年比では多目の推移となる可能性もある。また、米国産牛肉の全箱確認検査が終了すれば、牛肉の輸入量も徐々に増加するものとみられている。こうした需給の動向からみると、6月から7月中旬にかけての枝肉相場は、さらに一段下げの展開となりそうだ。8月の旧盆需要期には、一時的な相場の上昇が考えられるが、昨年までの高値相場はないとの見方が強まりつつある。

米国産牛肉の輸入一時停止以降、長期に渡って高値を続けてきた牛肉相場だが、下方修正の段階に入ってきたと言えそうだ。中間流通にとっては、売りやすい相場となってきたが、肥育農家にとっては導入時の素牛価格が高く、さらに配合飼料の高騰で採算悪化は避けられず、今後、厳しい対応が強いられるものとみられる。肥育農家の採算悪化を反映して、素牛価格も下げの局面に入っており、今後の肉牛生産への影響が懸念される。ところ。



## △ 関東・関西輸入チルド牛肉仲間相場(19日)

(消費税含まず)

豪州	グラス	ショートグレイン	ミドル	ロング
チャックロール	650～740円	800～1,000円	1,380円	1,630円
クロッド	600～650円	650～730円	830円	1,100円
チャックテンドー	630～700円	710～770円	830円	990円
キューブロール	1,780～1,900円	1,950～2,250円	2,600円	3,400円
ポイント	640～680円	680～710円	920円	910円
ナーベル	640～730円	750～870円	1,400円	1,630円
ストリップロイン	1,450～1,550円	2,000～2,000円	2,450円	3,000円
テンドーロイン	2,750～2,900円	2,960～3,000円	3,300円	4,300円
ランプ	820～850円	830～850円	1,030円	1,130円
シックフランク	650～690円	680～750円	830円	970円
トップサイド	680～750円	690～770円	870円	950円
シルバーサイド	600～670円	630～690円	750円	900円
セット・単品合計	838～908円	945～1,028円	1,246円	1,493円

【概況】 ロインのほか、ランプなどにも引き合いが

総じて末端の動きは良くないものの、ストリップ、テンドーのほかトップサイド、ランプにも引き合いがある。半面、カタ・バラ系の動きは弱い。今はロイン系などの単品オファーは多いものの、現地や米国の需要の高さを受けて今後、一段と上がる可能性も。現地からも為替レート(円安)の悩みは日増しに強く、先週の102円台から今では104円台と、現地のコスト上昇は不可避の状況に。

米 国	アングレ	チョイス	プライム
ステーキレディ			
テンドーロイン			
リブアイロール			
チャックアイロール	玉	玉	玉
チャックリブ	なし	なし	なし
ショートリブ	なし	なし	なし
バストラミ			
チャックフラップ			
フラップミート			
カルピプレート			

【概況】 全箱確認終了も今後も未知数に

先週、ようやく全箱確認が終了した。従来よりは輸入しやすくなったといえるものの、搬入時のラベル確認や流通段階での検品の徹底、問題が確認された場合の社名公表についての基準など不透明な点も多い。夏場の需要期を迎えているが、全箱確認終了が今後の輸入量・相場に与える影響は未知数だ。価格としては、ステーキレディがアングレ2,100～2,200円でチョイスは3,000円超も散目される。